

令和元年度 個別事業評価調書

基本事項	事業名	地方バス路線維持費補助金	整理番号	21107
	根拠法令等	壱岐市補助金等交付規則	実施義務	なし
	総合計画区分	(5) 国内外交流が盛んなまちづくり～国内外交流・移住・定住～		
		<1>地域の利便性を高める道路・公共交通の整備		
総合戦略区分	【3】安心・安全で住みやすい魅力あふれるまちづくり			
	①交通インフラプロジェクト			
	(3) 島内公共交通の活性化への取り組み			
事業の対象・目的・内容	事業の背景 (課題・市民の要望等)	<p>自家用自動車の普及等により乗合バスの輸送人員は減少している。しかし、交通弱者の社会活動を保障し、また、今後の高齢化社会や環境問題等の社会情勢に対応するため、バス路線等に補助を行い、公共交通機関としてのバス路線の維持・確保を図る。</p>		
	対象 (誰に、何に 対して)	市内路線バス運行事業者		
	目標達成のための 具体的 手段・方法	<p>現在あるバス路線を維持するため、市内路線バス事業者に対し、バス運行維持のための補助金を交付し、公共交通機関としてのバス路線の維持・確保に努める。</p>		
	目的 (どのような 状態にしたい のか)	<p>市内の地域公共交通である路線バスを維持させるために、補助金を交付し運行経費の補てんを行う。</p>		

課名:	総務課	班名:	総務班	担当者名:	安永 多十											
事業進捗状況・達成度	成果指標 (目標達成度を 図るための 指標)	名称・内容等		単位	30	1	2	3	4							
		バス乗降客数	目標	千人	320	320	280	280	280							
			実績	千人	279	248										
			達成率	%	87.2	77.5	0.0	0.0	0.0							
		路線数	目標	本	30	30	30	30	30							
			実績	本	30	30										
	達成率		%	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0								
	活動指標 (目標達成の ために行う活 動実績)	名称等		単位	30	1	2	3	4							
			目標													
			実績													
		目標														
	実績															
事業費等の 推移	予算科目	02	款	01	項	06	目	05	大	01	中	00	小	00	細	
		事業番号		00806												
	年度	平成30年度 (実績)		令和元年度 (実績)		令和2年 (予算)		令和3年 (予算)		令和4年 (予算)						
	直接事業費	69,223		69,652		69,369		69,369		69,369						
	財源内訳	国庫支出金														
		県支出金														
		地方債														
		その他特財														
	一般財源	69,223		69,652		69,369		69,369		69,369		69,369				
	人件費	245		245		245		245		245		245				
職員	人	0.040		0.040		0.040		0.040		0.040		0.040				
	千円	245		245		245		245		245		245				
嘱託	人															
	千円	0		0		0		0		0		0				
事業費合計	69,468		69,897		69,614		69,614		69,614		69,614					

【1次評価】

総合自己評価（所管部署）

事業の評価項目と評価の視点		評価内容（判断理由、課題等）		総合自己評価（所管部署）					
必要性	①市民ニーズや社会環境の変化に照らし、事業の必要性が薄れていないか。	A=薄れていない、B=一部薄れている、C=薄れている 人口減少などで、利用者は減少傾向にあるものの、高齢者や学生にとって、路線バスは必要である	判定 A	評価結果 ● A 継続実施（見直しは行わない） ○ B1 事業規模の拡充 ○ B2 事業規模の縮小 ○ B3 事業内容の改善・見直し ○ B4 その他の見直し ○ C 休止（隔年実施などへの変更） ○ D 廃止（終期の設定等を含む）	判断理由 路線バスを維持させるためには、必要な事業である。				
	②事業を民間（NPO、市民、ボランティア等）に実施させることはできないか。	A=市以外での実施困難、B=一部民間で実施可能、C=民間で実施可能 路線バス維持のための運行経費補填であるため、市以外には実施不可	A						
	③対象者は事業目的に見合っているか。また、事業を取り巻く時代変化や、環境の変化に適応しているか。	A=概ね適切、B=改善の余地あり、C=見直しが必要 路線バス事業者が壱岐交通のみであるが、ダイヤや路線の見直しなど検討の余地がある	B						
有効性	④成果指標を達成するために、最適な事業内容となっているか。	A=概ね適切、B=改善の余地あり、C=見直しが必要 市内の路線バス事業者は、壱岐交通(株)のみである	A	今後の課題及び改善策、見直しの状況・方針 ダイヤ及び路線の見直しなど、合理的・効率的なバス路線の改善などにより、補助金の軽減につなげることも検討しなければならないが、利便性を損ねないよう慎重に取り組む必要がある。	<small>・総合評価で「見直し・改善を行うとした場合、見直しを行う上での今後の課題や事業の改善見直しを行うことにより予想される効果も併せて記入願います。 ・本年度の事業を実施するにあたり、事業内容等の見直し（改革・改善、終期の設定など）を行っている場合は、その内容についても記載願います。</small>				
	⑤事業対象者全員に偏りなくサービスが提供されているか。受益者負担等は適切か。使用料等の見直しの余地はないか。	A=概ね適切、B=改善の余地あり、C=見直しが必要 利用者においては、所定の料金で偏りなくサービスを受けている	A						
	⑥事業の効果をさらにあげる余地はないか	A=効果向上の余地はない、B=一部検討の余地がある、C=検討の余地がある 路線バスの効率性などにより、経費の軽減を図るなど検討の余地がある	B						
達成度	⑦事業は当初計画どおり実施され、成果指標が達成されたか。 ※成果指標と連動させること	A=全ての指標達成、B=一部未達成、C=達成しなかった 利用者数の目標達成はできなかった	B	【2次評価】					
効率性	⑧事業実施により、費用や業務量に見合った活動結果が得られているか。 ※活動指標と連動させること	A=得られている、B=一部得られていない、C=見直しが必要 目標達成には至っていない	B	総合判定					
	⑨必要な活動結果がより少ない費用や業務量で得られる手法に代えられないか。	A=現行以上の手法はない、B=一部検討の余地がある、C=検討の余地がある 路線バスを維持する上で、現行以上の手法はないと思われる	A	意見等					
	⑩類似・重複した事業や国県施策はないか。組織間の連携や役割分担に改善の余地はないか。	A=改善の余地はない、B=一部改善の余地がある、C=改善の余地がある 壱岐交通(株)以外の路線バス事業者はいない	A	【評価結果を踏まえた次年度予算への反映状況】					
		判定平均点（3点満点） A=3、B=2、C=1、空白=0として換算	2.60	① <input type="checkbox"/> 事業費縮減(事業の見直し)	② <input type="checkbox"/> 民間委託等によるコストの縮減				
				③ <input type="checkbox"/> 成果向上に向けた事業費増加	④ <input type="checkbox"/> 事務の効率化による現状維持(事業内容の拡充)				
				現年予算	千円	次年度予算	千円	増減	千円